

第1章

取り組みの背景

Summary

「1.1.庄内地域の概況」・・・平成24年の推計人口では、庄内地域は28万8千人で、高齢者人口（65歳以上人口：H24.10.1現在）比率は30.1%であり、県平均を上回っている。

「1.2.庄内地域の入浴死に係る課題と対策の必要性」・・・庄内地域は、冬期間は寒く、家庭内の温度差による入浴死が大きな課題ではないかと推測されることから、庄内の入浴事故の実態を明らかにし、防止策を検討し普及啓発を図っていく必要がある。

「1.3.全国の入浴死に係る状況と他機関による研究」・・・全国では1万4千人が入浴事故で亡くなっていると推計され、交通事故死よりもはるかに多い。死亡診断書をもとに死因を集計している人口動態統計では、入浴事故は病死と診断されることが多く、正確な数は把握できない。また入浴事故の研究は進んでおらず、実態を把握し、周知をしていく必要がある。

1.1. 庄内地域の概況

庄内地域は、山形県の北西部に位置し、東は月山を中心とする出羽丘陵によって県内内陸部と隔てられ、西側は日本海に面し、また北側は鳥海山が秋田県との境を、南側は朝日山地が新潟県との境をなしている。

面積は、2,405 k m²で県土の約 4 分の 1 を占め、神奈川県や佐賀県とほぼ同じ面積を有し、気候は、対馬暖流の影響を受け、内陸部よりも温暖で降雪量も少ないものの、年間を通して風が強く、特に冬は北西の季節風による地吹雪と呼ばれる風雪が発生する。

平成 17 年度、庄内 12 市町村が関わる市町村合併が行われ、新たに鶴岡市、酒田市、庄内町が誕生し、これまでの 2 市 11 町 1 村から三川町、遊佐町と合わせ 2 市 3 町に生まれ変わっている。

人口は、昭和 30 年の 37 万 6 千人をピークに減少し、昭和 55 年に一時増加に転じたものの、その後再び減少した。平成 24 年の庄内地域の推計人口は 28 万 8 千人で、県の人口に占める割合は 25% となっている。また、庄内地域の出生率（H24. 10. 1 現在）は 6.5‰ であり、これは県平均の 7.1‰ を 0.6 ポイント下回っている。平成 24 年の高齢者人口（65 歳以上人口：H24. 10. 1 現在）比率は 30.1% であり、これは県平均の 28.3% を 1.8 ポイント上回っている。高齢化の進行を市町別にみると、全ての市町で 25% 以上の水準となっている。最も高いのは遊佐町の 34.0%、最も低いのは鶴岡市の 29.6% である。¹⁾

1) 庄内地域の概況 平成 25 年度版（山形県庄内総合支庁）

1.2. 庄内地域の入浴死に係る課題と対策の必要性

入浴中の死亡事故が多いという話題は、昨今新聞やテレビのニュースで取り上げられるようになったが、それまでは多くの高齢者が死亡しているらしい、冬期間に増えるらしいと詳細は不明であった。

山形県における不慮の事故死は死因の第 6 位（46.4（人口 10 万対））で、その中でも不慮の溺死及び溺水は交通事故死よりも多く発生しており（不慮の溺死・溺水：9.5、交通事故死：5.6）、庄内地域も同様のことがいえる（交通事故死：5.8、不慮の溺死・溺水：7.2）²⁾。

しかし、この統計では、医師が書く診断書をもとに死因を確定し集計しているものの、入浴中の「溺死」の数は事故死（外因死）または病死（内因死）と医師により診断が異なるため、実際の入浴中の溺死の数は、正確に把握できない状況にある。

庄内地域は、冬期間は寒く、入浴死が大きな課題ではないかと推測されることから、入浴事故の実態を明らかにし、一人でも多くの住民を入浴事故死の危険から守るための防止策を検討していくことが急務となっている。

2) 平成 23 年保健福祉統計年報—人口動態統計編—（山形県健康福祉部）

1.3. 全国の入浴死に係る状況と他機関による研究

全国の不慮の溺死・溺水の状況について人口動態統計³⁾では、年間 7,356 人に上り、これは交通事故死の 6,741 人よりもやや多い数となっているが、財団法人東京救急協会の調査によると 1 年間の全国の入浴中急死者数は約 1 万 4000 人と推計されており⁴⁾、これは交通事故死よりもはるかに多くなっている。また救急搬送から入浴事故を詳細に調べたものは平成 12 年度に作成されたこの調査のみである。⁴⁾

このように入浴事故に関して正確な把握ができず、研究が進んでいないのが現状であり、実態の把握及び対策を早急に進めていく必要がある。

3) 平成 23 年人口動態統計（厚生労働省）

4) 入浴事故防止対策調査研究委員会：平成 12 年度調査研究報告書。財団法人東京救急協会、2000